

チュービンゲン大学学 長一行を迎え、学長会 談・特別対談を実施

11月28日（金）13時より、同志社創立150周年記念式典に来賓としてお招きしたチュービンゲン大学のカルラ・ポルマン学長、アンゲリカ・ツィルカー人文学部長、モニカ・シュリンプ教授、フィン・ホルム准教授を迎え、京都プリンス宝ヶ池・茶寮にて学長会談を実施した。ポルマン学長の来訪は、2023年のチュービンゲン大学同志社日本研究センター（以下、「TCJS」という）創設30周年記念行事に続き2度目である。

本学からは、小原克博学長、木原活信副学長・国際連携推進機構長、小山田英治国際センター所長、亀山洋子EUキャンパス支援室長、およびTCJSからミヒャエル・ヴァフトゥカ所長が出席した。会談では、両大学間で進展している多面的な交流に触れつつ、研究協力のさらなる発展、EUキャンパス新棟移転に向けた企画、そしてチュービンゲン大学が550周年を迎える2027年に向けた協働のあり方について、活発な意見交換が行われた。



続いて15時から、同会場にて学長同士による特別対談を実施した。対談はドイツ語および日本語で行われ、同時通訳を交えて進化した。司会は木原副学長・国際連携推進機構長が務めた。本対談では、30年以上にわたり築かれてきた両大学の歴史的友誼と交流実績をあらためて確認するとともに、共有する理念や教育・研究の方向性を踏

まえ、将来に向けた展望について存分に語り合う有意義な機会となった。

特別対談の様子は後日動画として公開し、日本語および英語の字幕を付すことで、本学関係者およびチュービンゲン大学のみならず全世界の視聴者へ広く発信する予定である。



同志社大学とチュービンゲン大学は、長年にわたり戦略的パートナーとして互いの発展に寄与してきた。本会談を契機として、今後も両大学の協働を一層深化させ、教育・研究・国際交流のさらなる発展につながることを期待している。

今回の来訪と対談実施に際して、チュービンゲン大学の協力に深く感謝の意を表したい。

（EUキャンパス支援室）

社会学部20周年記念の 集い

11月8日（土）、同志社大学社会学部開設20周年を記念した「社会学部20周年記念の集い」を開催した。午後には新町キャンパス臨光館301教室にて記念シンポジウムを実施し、多くの来場者が参加した。開会にあたり、空閑浩人社会学部長が挨拶し、学部開設から現在に至る歩みと関係者への謝意を述べた。続いて、小原克博学長より来賓祝辞があり、社会学部が同志社大学全体の発展に果たしてきた役割と、今後に対する期待が語られた。

基調講演では、初代社会学部長を務めた黒木保博名誉教授が「同志社大学社会学部の回顧と展望：学部開設から

の20年を振り返り、将来の姿を描く」と題し、設立当初の構想、学部教育の変遷、社会の変化に応じた学びの再編などについて豊富な経験をもとに講演した。後半の座談会では「これからの社会学部に期待すること」をテーマに、板垣竜太教授の進行のもと、藤本昌代教授、埋橋孝文名誉教授、佐伯順子教授、浦坂純子教授、吉田亮教授の5名が登壇し、これまでの教育改革の取り組みや、これからの教育の将来像について活発な議論が交わされた。閉会挨拶は空閑学部長が務め、節目を迎えた学部の今後の発展への意気込みが述べられた。

同日18時からホテルオークラ京都に会場を移し、祝賀パーティーを開催した。フリーアナウンサーの谷尻萌さん（メディア学科卒・2017年度入学）の司会のもと、空閑学部長による開会挨拶の後、八田英二総長・理事長による祝辞、沖田行司名誉教授による乾杯が続き、和やかな雰囲気の中で会食と歓談が進められた。会場では卒業生インタビューや20周年クイズ大会といった余興も行われ、総勢約180名の卒業生・教職員が世代を超えて交流する貴重な機会となった。最後に空閑学部長の一本締めで閉会し、20周年の節目を祝う盛会となった。



（社会学部・社会学研究科事務室）